

○学童疎開船対馬丸事件（1788名中8割が魚雷攻撃で死亡）集団自決（強制集団死）、ひめゆり

Q3. 神風特別攻撃隊（特攻）についてどう受けとめていますか？

当時の時代は「お国のために命捧げる」「天皇のために死ぬ」が当たり前とされた時代。特攻作戦は敗戦の前年1944年、敵に打撃を与えるために爆弾とともに体当たりをして、自分の命を失うのが特攻作戦。飛行機で敵に向かう航空特攻の他、モーターボートや魚雷に爆弾を積んで敵艦にむかう水中特攻・水上特攻もありました。

〈日本軍の「精神主義」がもたらした無残〉

1945年当時の日本、アメリカを中心とした連合軍の圧倒的な戦力に各地で敗退を続けていました。日本の「敗戦」は時間の問題となっていました。国力からも、軍の体制からも勝負の行方は歴然としていました。にもかかわらず、日本は国力が劣っていても日本精神や「大和魂」によって勝てると国民に教え込み、最後の一兵まで戦うことを強要しました。特攻作戦はその一つでした。「生きたい」という思いを踏みにじて、死へと駆り立てていったのです。敵への命中率は低いものでした（沖縄戦の航空特攻では（7.9）%といわれています）。消耗品のように扱われた兵士たちの死は、無残としかいいようのないものでしょう。そして軍人に意義ある死に場所を、と考えるようになります。航空特攻作戦だけでも（判明しているだけで）（4000）名が犠牲になったのは、このような背景がありました。特攻は当然、天皇も軍中樞も許可した作戦です。本来なら戦争を遂行し作戦を命令する側の責任が問われるべきものでした。

〈特攻は、美化すべき話でしょうか？〉

戦死者の大部分は、戦争末期の1945年に集中しています。特攻作戦も、餓死・病死のほとんどはこの時期です。つまり、もっと早くに戦争を終結していれば、死は免れたはずでした。消耗品のように扱われた人間の命。「国家のために個人を捨てた。だから今の日本がある」とその行動を美化する声があります。そもそも国家は個人（国民）があって成り立つもの。個人の人権をないがしろにする国家などありえません。〇〇のために個人を捨てたと美化することは危険です。今、憲法改正論議の中で再び「個人を捨てよ」という空気が強まりつつあります。「永遠の0」はそのような重要な問題を意図的に隠した作品でもありました。最後に主人公の遺族や友人の感情に共感させる場面を作りながら「お国のために自らを犠牲にして亡くなった人々がいたから、今の平和な日本がある」というイメージを強調する効果を狙っています。そこでは、述べてきたような特攻作戦の異常さ、日本軍の失敗や退廃を見えなくしています。「永遠の0」が隠している事は、ほかにもあります。アジア太平洋戦争が、国の内外に数多くの悲劇、むごい現実をもたらしたことを。皆さんどう思いますか

Q4. 米国による広島・長崎原爆投下、どう評価する？—いまなお残る国内の戦争被害

○1945年だけで、20万人以上の人々が原爆で亡くなりました。原爆症で亡くなった人を含めると30万人と言われていました。被爆者ピーク時37万、現在も20万1779人が苦しんでいます。鹿児島に950人います（ピーク時1500人以上）。宮崎587人、熊本1406人（平25年3月末）
○原爆モニュメント＝広島平和記念公園には50以上の碑や遺跡があります。一つひとつのモニュメントには意味があり、込められた思いがあります。なかでも「原爆の子の像」が有名です。佐々木禎子さんが2歳の時に被爆、小学校6年生の時に突然白血病を発症、入院闘病8カ月の後12歳で亡くなりました。折り鶴はいまも世界各地から届けられ像の周囲にささげられています。
○「火をくぐって、よろよろと逃げ延びてきた人たちが、山木さんにぶつかります。服は燃え尽き、裸の皮膚も顔も赤黒くなっています。中にはすすをぬりつけたようにまっ黒の人もありました。かと思うと上半身赤むけの赤鬼になったような人が、よろめきながら行きすぎました。ここはどこだ、地獄か。地獄に落ちてしまったのか。山木さんの足元で声が出ました。全身やけどの死体が2つ転がり、その間に挟まれたやはりやけどのべとべとの人が手をさしのべて水、水と言っています。その人の手が、山木さんの足にしがみついていた。（中略）いつの間